

平成28年度第3回東大和市公民館運営審議会会議録

日 時 平成28年7月21日（木） 午後2時～4時

場 所 中央公民館 視聴覚室

出席者 （委員）10人

（職員）尾又中央公民館長、平野中央公民館事業係長、藤田南街公民館長、佐野狭山公民館長、岩田蔵敷公民館長、蓑田上北台公民館長、内藤主事（記録）

欠 席 2人

・内容

・審議事項

・①「公民館に関わる東大和市の各種計画と具体的な取組」

委 員：審議事項は1つで「公民館に関わる東大和市の各種計画と具体的な取組」についてで、資料①が添付されております。前回に引き続き2回目ですので、そろそろ終わりを迎えたいと思います。では尾又中央公民館長、資料1をもとにご説明お願い致します。

尾又館長：皆さんこんにちは。なかなか梅雨明けしませんが、本日も足元の悪い中、お集まりいただきましてありがとうございます。

前回、東京オリンピックの翌年が50周年ですので、オリンピック年に50周年事業の中身について答申を提出していただきますとお話してしまいましたが、思い違いがございましたので、訂正させていただきます。

本日机上に配布いたしました資料2をご覧ください。50周年のスケジュールを改めて書き出してみますと、平成28年度、本年度でございますが、事業費予算として100万円以上を考えるか100万円以下を考えるかによって、実施計画にのるか否か変わってきますので、まず今年度皆様で話し合っていていただいて、予算を100万以上にするか、100万円以下にするかご意思を確認する必要があるかと思えます。こちらの議題につきましては、まだ正副の委員さんとも打ち合わせしておりませんので、今後話し合いながらご確認したいと思えます。100万円以下の場合ですと、平成31年度中に答申をいただき、それに基づき見積もりを取って32年度の夏に予算を検討し、秋には提出いたします。予算提出が東京オリンピックの年ということになります。100万円以上計上することになりますと、29年度中に

答申をいただき、30年5月に主要事業に上げさせていただきます。これを通過しますと、実施計画にのります。認められない場合は、100万円以下での実施となります。

参考までに40周年記念事業の際は、記念誌印刷製本費として145万5千円計上いたしましたが、予算にのりませんでした。決算としては、23万2,995円でした。これを頭に入れて、スケジュールをもとにご審議いただければと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

それでは審議事項に移させていただきます。本日は、前回に引き続き、公民館に関わる東大和市の各種計画と具体的な取組について、ご審議いただきたいと思います。前回のご質問に基づき資料1をご説明させていただきます。表1「各館利用率 午前午後夜間別」をご覧ください。平成27年4月～12月の調査でございますが、中央・南街・上北台は、午前・午後が70%を超える利用率、夜間は40～50%の利用率となっております。狭山・蔵敷は午前午後が50%台、夜間は30%前後に落ちております。

表2をご覧ください。平成27年度の公民館の講座や主催事業の利用者の割合となっております。この表はパソコン管理上、講座や事業について把握できるもののみを集計しました。全活動ではございませんし、もちろんグループ活動は含まれておりません。男女の率は男性38%、女性62%です。年齢別には30歳代が18.6%であるのは、子育て中のお母様の利用によるものと考えられます。40～50歳代の働き盛りは、利用率が落ちております。60歳代70歳代が27%・32.4%で最も多く、80歳代以降は6.6%となっております。

前回配布した資料では、公民館や市民センターに来館した方の年齢層を把握できます。前回資料4のP86でございます。こちらの表から計算しなおしたものが資料2の下の表です。月に1回から週に1回使っている方は、10・20代の方は83人×4.8%で3.9人、全体は合計すると803人にしかありませんので、4.8%です。以下同様に計算しますと、30代の方は12.3%、40代の方は14.7%、50代の方は14.7%、60代以上は53.5%でした。こちらは講座や主催事業ではなくて意識調査で答えてくださった方たちで、目的はグループ活動か講座かわかりませんが、公民館に来ていただいた方に調査したものです。

また、前回、グループの会員数が減り、小規模化しているので、学

習室を小さく区切れればよいのではないかというアイデアをいただきましたが、実態としては、反面、大きな学習室から予約が入り、大きな学習室が満室の場合、小さな学習室をお勧めしても、ご利用につながらない状況もございます。大きな学習室の不足を感じているところでございます。

もう1点、市民センターなどに利用が移行しているという中で、どんなアイデアによって移行が進んだのかということですが、改めてご説明したい点がございます。公民館運営審議会ハンドブックをご覧ください。19ページでございます。公民館と学習等共用施設の説明が、表になっております。まず、修正ですが、一番右側の市立集会所ですが、5施設となっておりますが、現在6施設です。平成26年4月に玉川上水のオハナというマンション住宅地に、「玉川上水集会所」が設置されました。公民館は教育委員会に所属しております。教育施設ですので、上から三段目の施設の目的をご覧くださいと、各種の事業を行うこととなっております。そのため、職員を配置し、講座・まつり・イベント・グループ支援・各種相談業務を実施しております。また、中段の市職員（嘱託職員）となっておりますが、ただいまの採用状況は（再任用職員）となっております。こちらのほうも訂正させていただきます。

市民センター内の地区会館や集会所は、教育委員会ではありません。市長直下の行政部門になります。ともに、施設の貸出しのみですので、事業を実施する職員は配置しておりません。新堀地区会館のみ、中央公民館から出張講座を致しておりますが、他の館は事業は実施しておりません。よく、利用者連絡会などの交流会や総会などで、グループの方からお話が出るのが、利用連の役員を出してとかまつりの実行委員を出してとか、講座の企画委員を出してとか言われるが、高齢化で役員として活動できる会員がいない。求められることが多いので、会員が公民館ではなく、市民センターに移りたいと言っている。あるいは、そのような理由で、市民センターに移ってしまったグループがいるというお話です。市民が文化を伝授しあったり繋がりあって地域を振興したりということを支援する工夫として、活躍の場を設けておりますが、負担に思っ活動場所を変更してしまうグループがあるようです。できる範囲でほんの少しの力の発揮でも構いませんからとお伝えしても、活動場所を変更することのほうを選びたいという気持ちを簡単には変えていただけないようです。前回についての追加の説明事項は以上でございます。

委員：ありがとうございました。恐れ入りますが、前回の資料の3枚目をお開きください。「第2回公民館運営審議会会議次第添付資料について」のタイトルになっている公民館に関わる東大和市の各種計画と具体的な取組」についての説明がア～カまで、まとめられていました。①については、今日の補足説明や前回出た内容についての館長からの説明によって改めて、見ていただきたいのですが、今日をもちましてこの審議は終了させていただきます。まず、アについて、「今回は、個々の事業の中身についてのご審議ではなく、全体的に、東大和市の公民館に欠けているものについて、ご審議いただきたいと思います。」ということで前回いろいろな方面からご意見をいただきました。資料1につきまして目を通していただきました。資料2は該当箇所の全文を掲載してあります。アについてはその後、特に大きなことはなかったと思います。イの「公民館の課題としまして、平成23年度市民意識調査にありますように」というところは今日も補足説明がありました。

資料3をご確認ください。平成23年度市民意識調査というタイトルがついています。その公共施設利用状況について、というのが審議していただくための資料となっております。そのさらに説明が今日机上配布になった、先ほど館長から説明があったものになります。それから、ウについては「資料5から利用者数が減っている。」という説明がございましたし、グラフが確かに下がっている平成13年度から18年度について、その理由を皆様からご意見をいただきました。戻りまして、エは「このことから見直しが必要だと考えます。未利用者へのアピールできる事業について、ご意見をいただくと幸いです。」とのことで、これも前回審議事項にしましたので、未利用者へのアピール方法について、DVDなどの映像やインターネットを使うというような一例もございました。次はオですね、「第2回のみのご審議では、時間的に困難とも思われます。」ということで第3回になりました。最後にカ「第2回につきましては、第1回と同様、個々の事業についてのご意見をいただくご審議も可能と思います。」というわけで、今日第3回迎えました。今回の館長の説明も含めて、まだこのことについては意見を言いたい、改めてこういう感想を持ったというようなことをおっしゃった上で、この審議を終わりたいと思っているのですが、どうでしょうか。

委員：議論の前に念のため、質問させていただきたいのですが、まず今日

の資料の中の表1についてですが、利用率の母数についてはそれぞれの館違うと思うのですが、母数を教えていただけますか。

尾又館長：4月から12月までになっているのですが、 $(\text{年間利用件数} \times 3) \div (\text{年間開館日数} \times \text{部屋数}) \times 100\%$ になっております。

委員：3ではないでしょう。午前・午後・夜間と別々にでていますから。

尾又館長：午前・午後・夜間、別々ですと3を掛けないものになります。

委員：そうですね、念のため確認しました。

委員：分母は開館日数×午前だと1、午後だと1×30が分母ではないのでしょうか。

尾又館長：分母は部屋数を掛けます。それぞれの館の部屋の数は11部屋、南街5部屋、狭山5部屋、蔵敷4部屋、上北台5部屋になります。

委員：それでは皆様の方から何かございますか。

委員：利用率なのですが、午前とか午後で75%を超えているようなところを80%、90%とするのは、利用している感じとして難しいかと思えます。午前・午後のこれがいい形だというのはどの程度運営側として目標はあるのでしょうか。ある程度融通の利く方が、利用する側も運営する側も良いかと思うのですが。目安はございますか。

尾又館長：数値的なことで職員で意識のすり合わせをしたことはございません。ただ、南街はいつもお部屋が混んでいるというような感覚を持っています。今回は南街のように高いところではなく、数値の低いところについてアイデアをいただきたいと思えます。

委員：南街は比較して数値が高いので、目標は達成しているかと思えます。それよりもより少ないほうに館長がおっしゃるように、アイデアがいただけないかということではないでしょうか。

委員：私の感覚では、知っている人が来る公民館だと思うのですね。東大和は9万人の人口で30代から60代以上の方は何人ぐらいいて、その中で行ったことがある人は公民館のことをわかっているかと思うのですが。まだ公民館を知らない、行ったことがない人たちがどれくらいいるのかなど。今日この人数は年代別にわかっているので、あとどれくらいの人たちが知らないのか、知っているとかわかりそうですよね。その数を知りたいなと思っています。

あと、もう1つ、これも前から市民の方から言われているのですが、午前中は3時間で9時から12時まで、午後は13時から17時まで、その後夜間と3区分に分かれています。東村山では4区分に分かれていて、午前中は9時から正午、午後は12時20分から15時2

0分まで、その次に15時40分から18時40分まで、夜が19時から21時までとなっております。そういった形でもっと使いやすい時間があれば、今日ダメなのだと諦めてしまうのではなくて、調整することができると思います。またシステムが大変だと思うのですが、そういうところが改善できたらなと思いました。

委員：市民の年齢層分布ですね。年齢別の統計ですけど、手元にある方はいらっしゃいますか。これは調べれば出てくるかと思いますが。40代、50代がたくさんいるのにも関わらず、利用者が少ないというあたりにどう広報活動するかということに繋がっていくのですかね。

委員：そうですね、今のところは、ただ単に数を知りたいなと思っているだけです。

委員：2つ目は本市の午後の使い方ですね。それで他市の例を挙げてくださったと。そこで、もっといい使い方があるのではないかというアイデアですね。他にございますか。

委員：私も公民館や集会所等を利用させていただいております。公民館自体の利用率については、地域とか駐車場の関係とかそのようなことも若干作用するかと思うのですが、いかに公民館を有意義に、大変楽しかった、よかったというようなサークルの増加ができればいいですね。公民館でもいろいろ講座を開いているかと思うのですが、その中で講座自体も、自主グループが生まれてくるような、市民の方が興味を持てるような講座を取り入れてもらいたいと思います。

委員：市民が期待するような、これならでてみようかなという講座が広まっていくと、うちでもできそうだなというようなアイデアを他からもらえますよね。それぞれ、各館で企画し、人集めをして、参加してもらうことで次に繋がると。

委員：今でもサークル活動はいろいろありますからね。それに準じたことをやるかと思いますが、まだまだ市民の方が喜ぶような講座があるかと思いますが、その辺を公運審の方でもっと考えて、公民館の職員の方にも検討いただければと思います。

委員：公民館の重点目標の中面に出ているようなことが、どれほど周知されているだろうかということと、実際に参加した方の感想や意見がどれほど反映されるのかということ。参加した方が、次につながるというのが良いPR方法だと思います。

委員：今回の利用状況に関する資料をご用意いただいて、このようなものはバラバラの数値ではなくて、ある程度定期的に同じところの数字を拾っていただいて、動きを見えるようにしないといけないと思い

ます。

感覚的に、退職後の男性に対するアピールが進んでいて男性が公民館に増えたなという印象を持っております。その分、同世代の女性と一緒に何かやろうというときに少ないなと、寂しく感じています。友達のことでも考えてみて、まだ働いている方が多いのですね。女性も再就職して働いている状況があるということ。それと、お孫さんのお世話とか、介護が入ってきているのです。この表では60代後半から、70代、80代の方が公民館を支えているということですが、このままずっと10年、20年先には女性は支えられないなと思ひまして、今頑張っている退職の男性陣がそのまま続けられていけば、10年後、20年後の公民館を支えられるのではないかと思うのです。地域デビューパーティーでは、男性の掘り起こししていると思うのですが、女性の掘り起こしはあまり考えていないのかなとちょっとだけ心配です。

話は違うのですが、全体的な公民館の事業計画を見たときに防災ってというのが、1年間にあったのかなというところと、今憲法改正ということが出ていますが、そういうことを学ぶ機会が公民館にあるか、もし市民が自主的に講座を開けばあるかもしれない。それから18歳選挙が始まったのですが、そういうこともない。1年間の計画で、どこかの公民館で1年に1回でもいいから実施することが、利用率を上げるよりも重要なのではないのかなと思います。

もう1つ、公運審が毎回木曜日に行われるのですが、中央公民館の入り口のほうでお野菜を売っていたり、食器のリサイクルをしたり、ホールを利用されていますよね。公民館の活動とは直接関係なくても、ロビーとか施設を提供して、市民が出入りできるような公民館がいいなと感じます。

委員：前回と今回の資料から、思いつくこととして、尾又館長からもお話しがあったように意識調査の中で利用したことがない平成23年度では71.2%、26年度では74.4%という数字を理解しているのです。公民館を知っていて月に1回以上活動する市民の人たちと、今申し上げたほとんど利用したことがない人たちが圧倒的に多いのですね。そうすると、すでに利用している人たちに対する、活動や学習会を定着させるような方策が議論させるときが一番多いと思ひます。

また、公民館をもっと利用していただくポテンシャルのある人たちで、役割や内容は知っているが使用したことがない人への1度足

を運んでくださる方策、そして役割や内容だけではなく公民館の存在を知らない人も圧倒的に多いのであって、そのような方々に手を打っていくと。前回こういった整理をすることなく、アイデアが出ましたが、例えば映像などの DVD とか。そういったエリア別に何か対策を考えていくというようなことも必要なのかなと思いました。

例えば、自治会活動はやるけども、公民館活動はやらない人が、自治会で使う会場がなかったときに、ある程度のルールを守って登録していただければ、夜間に利用ができます。というように公民館の敷居を低くしてあげて、とにかく公民館に来ていただいたら、次の地域活動に繋げる。そういった視点が必要だと思いました。まだまだ手についていないところの人たちが何かのきっかけで公民館に来ていただいて、そこから次のステップに行くということが十分考えられますよね。

委員：ありがとうございました。では、他に。

委員：現状をもう少し掘り下げたいと思うのですね。既に具体的な意見が出たところで申し訳ないのですが、現状を知る上で質問させていただきたいのが、先ほどの利用率のところ尾又館長から比較的大きい部屋から埋まっていくということでしたが、中央公民館ではホールが個別的にどうなっているのか、各館でも比較的大きい部屋が最初から埋まっていくのかなという意味で、実体を垣間見るところではどうなのかなと疑問をもつのです。利用率がぐんと落ちたのが、市民会館が出来たからということに関係があるかと思うのです。もし、市民会館ができたためにホールの利用率が下がったのであれば、それなりの対処が出てくると思います。

委員：大きいところからふさがるということは、どういうことなのかと。もう1つが、公民館のホールの利用率等ついてですね。

尾又館長：それでは大きいお部屋の利用率を申し上げます。26年度の集計ですが、ホールは85.29%、南街の202は84.59%、狭山の101は85.75%、蔵敷公民館の101は84.15%、上北台の301は80.75%となっております。

委員：よくわかりました。利用率というのは、人数ですか。

尾又館長：コマです。件数です。

委員：先ほど委員もおっしゃった通り、防災に関する講座とか、催しについては大賛成です。その辺はあとの5館合同のほうでもふれますが、そういったことも取り入れる必要があると思います。それから委員も言われたようにもう少し広報に関してきめ細かく具体的にしてい

ただければいいと思います。例えば、公民館まつりに来るお客さんは公民館ではどういう内容のものを、どういうサークル発表をしているかがわかると思うのですね。そうすればもっと公民館についてわかると思うのです。まつりとか、こうみんかんだよりなどの広報の機会を活用して、公民館を知ってもらうようにすれば、もう少し繋がっていくと思います。ただ利用率を上げることだけではなくて、いい意味で公民館を使ってくれるような内容も含んでいただければなと思います。例えば、体育系の講座をするとか、防災関連のことをやるとか、まだまだ分野が開けてくるかと思います。抽象的ではあり申し訳ございませんが。

- 委員：講座のアイデアをいただきました。それと、広報の仕方をもう少し工夫してみたというアイデアをいただきました。
- 委員：利用率を出していただいたのですが、目標は南街公民館73%らしいのですが、過去の利用率もそれほど変わりはないと思っております。具体的にはこの前出していただいた、資料6の内容を着実に実施していただきたいというのが1点と。2点目は地域の案内板とか、表示板とか見かけないので、お金のかかってしまうことですが、お願いしたいと思います。3点目は、上北台が比較的利用率が高いということから、喫茶室や自販機など整備していただき、明るい感じにしていただければと思います。
- 委員：委員がおっしゃったのは、前回の資料6の重点目標の(1)と(3)を着実に実施していただきたいということと、3点目の公民館の雰囲気明るくしていただきたいということですね。
- 委員：まずは、こうみんかんだよりを早急にリニューアルしていただいて、カラーにし目立つようにすればいいかなと思います。
- 委員：前回もお話しましたが、変えるための集まりがあったり、予算の問題があったりして、どうしてもひっかかりますね。他にご意見のある方。
- 委員：前回の資料5を見ると、全体的な傾向と致しまして公民館利用者が減ってきて、市民センターが増えてきているという事実がありますね。館長からの説明にもありましたように主管の部署が違うということから難しいと思うのです。例として私鉄がJRや地下鉄に乗り入れるように、公民館を市民センターに乗り入れたりすることはできないのかなと思いました。桜が丘地区は若い人が多く出入りしているのに、市民センターはあるのに公民館はない。また、総合福祉センターができるので市民センターの利用者は増えると思います。そう

いうことも考えると桜が丘にてこ入れするようなことが不可欠ではないかなと思います。

委員：なかなか時間のかかることだとおもいますが、大事なことです。他にいらっしゃいますか。

委員：今日は冒頭から新しい資料をもとに利用率についてご説明ありましたが、利用数というのは各地区、自治体によって異なりますから一律には言えないのですが、利用率の下降傾向についてはどの地域の公民館でも抱えている大事な問題だと思うのです。したがって、他市と情報交換するとか、利用率を比較するとかそういうことは過去なかったのでしょうか。

委員：各市との公民館運営上の情報交換ということですね。

尾又館長：数字的に利用率について比較できるような資料はないと思われま。運営についての資料はございますが、利用率の比較はなかなかできていません。

委員：インターネットを使って調べてみますと、先ほど尾又館長がいった平成23年度の71.2%の人がほとんど利用していないとか、こういったことに匹敵する何かがないかなと調べてみたところ、平成22年度の生涯学習施設に関する調査研究では公民館の使用頻度というところの「1年以上公民館を利用していない」というところについて、中小規模都市群（人口が3万から30万）というところに東大和も入ると思うのですが、その平均値が57.8%というのがありました。調査方法は違うと思いますが、もっと大きい都市にいくと72.4%と大きくなって、小さい都市にいく程、小さくなっていきます。東大和は比較しまして、まだまだ公民館を利用していない方が多く、予備人数は大きいという印象を持ちました。

委員：具体的な調査方法は同じとは限らないので、単純に比較するのは難しいですが、大規模都市が中小規模都市より利用率が少ないということは理解しました。ご参考まで。

委員：公運審の報告を利用者連絡会でさせてもらったのですが、意見として、ある方は退職して公民館デビューしたきっかけを聞いたのですが「今、公民館を利用する人たちは、お金があつて時間的余裕があつて、そういう人じゃないと来ないよ」というお話があつたのですが、その中で彼が感じていてお話してくれたのは、「パートナーをなくされたりして、とにかくお喋りがしたいという人たちに、趣味や教養の活動にはなかなか入りづらくて、お金がない人、自分の生活を一生懸命やらねばならない人たちには、公民館を利用するきっかけという

のは、まだ遠いところにある。」と書いていました。しかし、「文化というのは生きる力になる。きっかけをイージーにしてほしい。」ということで、今いっぱいアイデアがありましたが、公運審から公民館に一方的に意見をいっているだけではなく、以前に立ち上がった遊空間のように、公運審の中で何かできないかなというように思いました。その中で、より皆様に届けられるパンフレット作りなど取り組めたらいいな、やりたいなと思っています。委員からもありましたデータがきちっと残っているという意味としては、公共施設を考える会というのがありましたが、何年後かには利用されていない公民館はなくなってしまうとか、統合されてしまうとか、別の施設になってしまうとか、白書が出ています。ですので、尚更、データは大切ですし、私たちが考えなければならないのかなと思いました。

委員：館長の方から諮問を受けているのが冒頭に説明しました、ア～カになりますが、利用者の現状というものに視点を置いて今日のご意見をいただきました。その中で新たな講座の開発が一つ。それから、広報活動をもっときめ細かくできるのではないかと、考えてみるのが良いのではないかとのお話がありました。委員から出た、パンフレット作りというのも一つの案だと思いますが、公運審が中心となって、アイデアを出し合って考えてはいかがかということが今回意見として出ました。引き続き利用している人が、お仲間を作って次に繋げていくことも重要だと思います。委員さんは様々な分野・所属から来ていますので、それぞれの活動場所でこの公民館ではこんなことをやっているよというように皆さんが広報活動していく必要があると思います。

委員：私はまだ資料5（2）の大幅に利用者が減ったことについて全く理解できていません。納得がいかない。そういう意味で、今日の資料の利用率、件数での利用率ですが、これと比較できる平成13年度と18年度の各館利用率はありますでしょうか。平成13年度と18年度が同じように、傾向が重なっているのか、一方は人数で、一方は件数で。同じような件数が出てきたのだとすると、例えば中央公民館ホール使ったとしても、200人で使ったのか、50人で使ったのか違いがわからないのです。件数による利用率は高かったと言えますが、実は利用者が減っているということになります。なので、私はまだ理解できていないのです。実態がわからないところでの的確な対策はとれません。恐らくという文字をつければいっぱい提案できますが、資料5の（2）の大きく減じたところについて審議しているのであれば、

まずは実態を理解しないと結果には繋がらないと思います。大変申し訳ないのですが、平成13年度と18年度を比較しないとわかりません。もし、部屋を利用する人数が減ったのであれば、公民館以外の施設、市民センターや老人福祉施設などにとられてしまったというのが原因かもしれません。そういうように見ていくと、今意見で上がったことが正しいかもしれないし、別の対策を取らないといけないうのかもしれないかもしれませんよね。がくんと減少した真の原因について深く考えなければならぬと思います。

尾又館長：平成13年度と18年度の利用件数（利用率）と利用人数ですが、前回もお話した通り、40周年記念誌の100ページを見ていただくとわかるように、利用件数が平成14年は1万6352、平成23年が1万6511。利用者数が平成14年は28万7016人で平成23年が21万7951人となっております。ということで、グループが小型化しているのだねというお話があったと思います。30周年のほうで見ましても、13年度が1万7977で、利用者数が30万6268となっております。一番人数が多かったのは10年が31万2752人で、利用件数は1万7568件となっております、そこを頭にして利用者数が減っているという状況でございます。

委員：ということは、件数では判断しづらいと思います。そうすると、委員からありましたように午後の時間割を1時間割にしないで、2時間割にするような工夫が必要かもしれませんね。

委員：グループを構成する人数が減ってきているということは、グループから離脱するような人も増えているのではないかとということで、そういう既にあるグループ以外に新しいグループがどういう年齢層でできているかという年代構成を考えていけば、今日の資料2にありましたが60代の方が多いところまで話ができました。となると、少ない人数のところをどうやって公民館を利用するように向けていくかという話しになりまして、各委員さんから出始めましたが、そのようなアイデアがもしかしたら効果的であるかもしれないし、やってみないとわかりませんが。または、別の方法があるのではないかと。委員から出ました、PR活動をきめ細かくする必要があるのでないかと把握しているのですが、皆様どうでしょう。

委員：委員は、公民館というのはどれくらいの距離にあるのでしょうか。

委員：正直あまり利用したことはないのですね。もともとできているグループに1人で入るのはなかなか勇気のいることで未経験の人でも入りやすいお声掛けとか、活動しているグループの年齢層がわかれば

自分と同じ年齢層のところに入りやすいし、麻雀とか将棋とか技術が必要なものでも、経験したことないけどやってみたいというときに未経験でも大丈夫ですと書いていけば入りやすいなと思いました。

委員：ありがとうございました。他にはございますか。

委員：今まで広報はポイントを決めてやってなかったと思ひまして。例えば子育て中のお母さんに向けて作るのであれば、そういう情報を市全体でこういうプログラムがありますよというように絞っていった方が、もっていく場所も絞れますし、効果が上がるかもしれません。他の世代は難しいかもしれませんが。

委員：年代に応じた広報活動という意味では、置き場所にも依りますし、表現も異なりますよね。

委員：おまつりは確かに公民館の敷居を低くするのに良いことなのですが、公民館で活動する人たちへの広報のしかたを見直してみると、明るくて、楽しくて、様々なことをやっているのかとわかるのですが、いつもの公民館とは違ってよそ行きな感じがするので、いつもの公民館を伝える何か機会があるといいと思ひました。

委員：会員になっていただきたいが最初から声を掛けると難しくて、ゆっくり自由に見ていただいて、興味を持っていそうだったらそっと声を掛ける、というように上手くもっていかないと嫌われてしまいます。熱心に聞いていただけたら、こちらも誠意を持って話す雰囲気も良くなると思ひます。

委員：私達、公運審の委員も宣伝活動するという方法もありますね。さて、長い時間に渡って審議してきましたが、委員の皆様のご意見をまとめることはできませんが、記録されている全ての発言は答申になっているとご承知かと思ひます。色んな意見が出るのが審議会ですが、言ったきりではないので、ある程度の方角が見えるような意見を言わせていただきました。

委員：動きを起こしていきたいことが2つほどございまして、1つはパンフレット作り、もう1つは公共施設を考えるということ、白書をもとに公運審と五館合同交流会とともに、公民館の先々のことを議題として、今年度中に動き出せるものをお願いしたいと思ひます。

委員：議題にするには、もう少し深く具体的にいただければと思ひます。今回講座に対する新しいアイデアやPR方法などについて上がりましたが、課題はすぐにここで解決できるようなことではありません。委員の言う通り分析の仕方によっては、まだまだ違う方策が出てくるかと思ひます。利用人数の減少を分析する必要があると思ひま

すし、分析するにはもっとデータが必要だと思います。しかし、追求できないこともありますから、当面まず目の前で、できることをやってみて、今年または来年数字に違いが出てくるか、手探りでやっていくことも大切だと思います。そこにわずかな兆しがでてくれば、過去のデータを差し置いてもその方法が良かったと言えるでしょう。それでは審議事項を終わらせていただきます。